



## 第43期生 卒業式 その1

体育館の舞台上には1年生が製作したタペストリーが、2階ギャラリーには、2年生が製作したステンドグラスがかけられています。学校行事、クラブの様子、テスト、各季節といったモチーフのかわいらしい絵柄をとおして柔らかな春の日差しが差し込んでいる中、第43回卒業式を挙行了しました。以下、式の進行順に紹介します。

### ■卒業証書授与

179名の卒業生一人ひとりに卒業証書を手渡しました。もうその時から目がウルウルしている生徒も…。厳粛な雰囲気の中緊張しながらも皆しっかり受け取る様子がありました。

### ■校長式辞

校舎西側の河津桜は今年もいち早く春の訪れを知らせてくれました。春本番の到来を感じるこの佳き日に卒業を迎えられた43期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。



今、皆さんにお渡しした卒業証書は、義務教育9年間を終えた証です。9年前、身体に比べて大きすぎるランドセルを背負って小学校に通い始めた君たち。そして今、卒業後の進路を悩みながら考え、それに向かって努力をしてきた君たち。43期生一人ひとりの誰もがこの9年間で様々な経験を経て、大きく成長されました。

この数年、世の中は大きく変化してきました。新型コロナウイルスにより、君たちは小学校五年生の三月から六年生の六月まで休校となり、中学入学後も緊急事態宣言が出たり解除になったり、という繰り返して、1年生の時には合唱コンクールも中止、クラブ活動も時間短縮や試合の中止がありました。三年生になってからも修学旅行後の学年閉鎖、学年末テストが延期になるなど、最後まで影響がありました。はじめは収束までいつまでかかるかわからない状態でしたが、今、人類はそれをコントロールし、克服しようとしています。それは、人類がたゆみなく知識の蓄積と研究を続け、その成果を引き継いできたからです。そして、君たちの義務教育の9年間もまさに営々と引き継がれている教育の営みの中での学びだったのです。

今、世界では武力を背景に物事を解決しようとする風潮が再び台頭しようとしています。君たちは、その最中に沖縄への修学旅行として事前から戦争と平和について学び、現地を訪れました。その体験をもとに今の生活と対比して当時の状況に思いを巡らせ、単に戦争はだめだということにとどまらず、どうすれば命を奪い合うことなく、人々が共生できるのかを考えている様子が、学年だよりや学級だよりから伝わってきました。

私は一年生の時に一クラスで一年間数学の授業を受け持ちました。そのため、特別な感情を持って君たちの三年間をずっと見守ってきました。そしてこの三学期、私は、君たち全員と面接を行い、また一人ひとりが書かれた自己申告票を読み、君たちの成長を心から実感しました。そこには、私が大切に思う「自立」「つながり」「学び」を実現している姿がありました。

クラブ活動で、同級生が一人もいない中で三年間やり切った思い、チームプレーは個人の力量ではなく緊張をほぐしたり励ましたりする仲間の力が集まらないと勝てないことへの学び。努力は必ず報われる、という先生の言葉を信じたあの時。一年生の夏から自分たちだけでクラブを運営しなくてはならなかったこと。部長を任されたけど、先輩のようにはできない挫折感。しかし、その中で仲間は困難に立ち向かう力をくれる、そして切磋琢磨しながら同じ試練を乗り越えてかけがえのない存在になっていった。けがから立ち直り、自分を信じ自己ベストを更新できた努力。そして、大会で全力を尽くして賞が取れた時のきらきらとした喜び。

学校行事でも、いろいろな経験からの学びがありました。

体育大会の応援合戦ではクラスのあまりの一体感に担任の先生もつい一緒に踊りだしてしまう、という一コマもありましたね。合唱コンクールのピアノ伴奏でみんなに貢献できたという思い。生徒会活動やクラス代表として活動する中で、みんなを引っ張るのではなく、下からみんなを支えるリーダーになりたいという思い。

皆さんの将来の夢や志も自己申告票の中にきらめいていました。

鉄道運転士になりたいと書いた人は、お父さんの仕事に影響を受けて志望した、と書いていました。医療関係の仕事と書いた人は、体調が悪かった時の体験がきっかけとなったそうです。苦手な理科や数学の授業に一生懸命取り組んで克服したときに管理栄養士になりたいという夢が生まれた人、技術家庭科の調理実習やミニトマトを栽培した体験から自分の料理で人を笑顔にできる仕事にと考える人、美術の授業の取り組みから絵に関わる仕事を目指す人もいます。二年生の時の職場体験で将来の自分の姿を思い浮かべた人や、海外で活躍したいと書かれた人も多くありました。君たちがこれからの夢を熱く語る姿が目に見え、私にはまぶしかったです。ウォルト・ディズニーは、「すべての夢はかなう、追いかける勇気があるなら」と言っています。夢を持ち、志を胸に、自分の可能性を信じ、これからも努力と研鑽を重ねてください。

しかし一方では、この三年間今ひとつ頑張れなかったとか、いい思い出があまりない、という人もいます。中学校時代の挫折、それはそれでよい、と私は考えています。人生のうちで、泣くのは36%、笑うのは64%だそうです。なぜならば、しくしく泣くので四九36%、はははと笑う経験は八八64%で合わせて100%となります。まあこれは言葉遊びですが、考えてみれば君たちが生まれてきた日だって、まずしたことは大きな声で泣く事でした。私は、これまで皆さんに失敗することの大切さやそこから立ち上がるための考え

方を繰り返し伝えてきました。トーナメント戦では優勝者以外はみんな負け試合を経験するのです。ましてや人生はトーナメント戦ではなく、どちらかといえばリーグ戦に近いでしょう。敗戦から何を学ぶかが大切だという点からいえば、人生の初めのうちに悩みや挫折をたくさん経験しておくことは決して悪いことではない、と思います。

義務教育の修了は、自分らしく生きる場所を探す旅の第一歩を踏み出すようなものです。新幹線で目的地に早く着くことを目指すのもよいですが、各駅停車で回りの景色を楽しみながら行く旅もまた素敵です。道中、様々な出会いがあり目的地が途中で変わることもあるかも知れません。人生100年時代、君たちの自分探しの旅はこれから始まるのです。

最後になりましたが、保護者の皆さま、お子さまのご卒業、まことにおめでとうございます。三年間本校の教育活動にご理解、ご協力、またご支援を賜りまして誠に有難うございました。教職員一同、心よりお礼を申し上げます。

また、本日、ご多用の中ご臨席を賜りました豊中市教育委員会、ならびに地域諸団体のご来賓の皆様、卒業生の前途を祝していただき誠にありがとうございます。今後とも地域の学校として、本校の教育に益々のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さあ、巣立ちの時です。

中学校三年間のさまざまな経験から培った力を礎にして、自立をめざして大きくはばたいてください。これからの新しい出会いも大切に人とつながり、学び続ける姿勢をもって、自分らしい「正解」を探しに行っていってほしいと思います。

以上、卒業生の前途を祝い、私からの式辞といたします。

四十三期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

豊中市立第十五中学校 校長 成瀬 彰

## ■送辞

柔らかな日差しの中、ビオトープの花々にも少しずつ春の香りを感じる季節となりました。先輩方の新たな旅立ちを祝福するかのよう正門の桜のつぼみが膨らみ、草木が芽吹いています。このよき日に、晴れて卒業式を迎えられた四十三期生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。



みなさんとの別れがこんなに早く来るなんて信じられない気持ちと寂しさでいっぱいです。先輩方にとって、三年間の中学校生活はどのような時間だったのでしょうか。きっと充実した毎日を送ることができ、あっという間に今日という日が来てしまったのではないのでしょうか。

先輩方と初めてお会いしたのは二年前の入学式でした。初めての校舎や、違う小学校出身の友達との出会いに戸惑っていた私たちを先輩方は暖かく迎えてくださいました。そのおか

げで気持ちも楽になり、戸惑いが楽しみに変わったことを思い出します。どんな時でも私たちを熱心にリードしてくれた先輩方は、やはり憧れの存在でした。

私たち四十四期生が初めてクラブへ参加した日。練習についていけるだろうか。先輩とうまくやっていけるだろうか…。私たちは多くの不安を抱えていました。しかし、そんな不安を吹き飛ばすように、先輩方は性別や学年の壁を越え、いつも私たちを励まし、どんな時でも一番近くにいてくださいました。

暑い日のグラウンド、寒い日の基礎練習。いつでも仲間と励ましあい、たくさん練習していた姿を見て、自分たちもやるべきことを自然と見つけることができました。

先輩方が作り上げる部活の時間は、いつも明るく風通しの良い雰囲気が当たり前でした。そんな雰囲気があったからこそ、厳しい練習でも挫けず笑顔を忘れずに頑張れたと思います。

記録を塗り替えることの難しさ、結果が伴わない悔しさ、そして、達成した時の喜びを示してくださったのも先輩方です。私たちは、仲間と声を掛け合い、切磋琢磨する先輩方の後ろ姿から部活動の本当の楽しさを学んだような気がします。

日常になっていたマスク着用がついに緩和された体育大会。マスクを外した先輩方の笑顔はとても輝いていました。リレーで「頑張れ」とエールを送っていただいたり、私たちのダンスを盛り上げてくださったり。一緒に声を限りに応援したのも、嬉しかった思い出の一つです。優勝という目標に向かって全力で競技に臨む先輩方は、今でも忘れられないくらいカッコよく、そして眩(まぶ)しく見えました。

先輩方が卒業した後のぼっかりと空いた教室。明日からそれを見ることになると思うと寂しくて、心細くてなりません。私たちをいっぱい笑わせてくれた。落ち込んでいるときに優しく話しかけてくれた。困っていたらすぐに助けてくれた。私たちは、三年生と一緒に居られてとても楽しかった。強く優しい先輩方は、これからも私たちの道標(みちしるべ)です。これまで本当にありがとうございました。

この豊中市立第十五中学校で、先輩方と共に過ごした日々を心から誇りに思うと共に、憧れ追いかけて続けた背中を今度は私たちが引き継ぎ、後輩たちに示していくことをここに誓います。

最後になりましたが、卒業生の皆様のさらなるご活躍をお祈りし、送辞とさせていただきます。

令和六年(二〇二四年)三月十五日 在校生代表 大坊 真斗 横山 咲季

会場を彩った後輩たちからのプレゼント  
1年生 タペストリー



2年生 ステンドグラス



舞台上そして窓から  
差し込む光が  
とてもきれいでした。  
準備も有難う！

